

開運成就 粟生聖天

真言宗 智山派

定福寺だより



成田山新勝寺伝来 定福寺不動三尊

蓮咲くは
笑い地蔵の
在す寺

能傳子

新四国曼荼羅霊場第六十一番

2023年62号

みずのとう
癸卯

ごあいさつ

住職 釣井 龍秀

皆様におかれましては、日々定福寺にご高配を賜りありがとうございます。感染症の拡大がはじまり三年が過ぎました。皆様、お元氣にお過ごしでしょうか。定福寺の法要やお集まりいただく行事も、以前のように行うことが出来ず、申し訳なく思います。

さて、二〇二三年は、定福寺開創一三〇〇年、弘法大師御生誕一二五〇年の年となります。定福寺ではこの好機に、講堂の建設を行うことを決定し、四年前から皆様にご報告と御助力のお願いを行なっております。これまで定福寺講堂建設に多額の御寄付を賜りありがとうございます。当初の予定では二〇二三年春に完成していましたが、感染症などの影響により一年延期となっております。残念なことに、何とか二〇二四年春には完成させたいと考えています。現在、賜りました御寄付は、当初の予定の半額弱となっております。

定福寺もあらゆる努力をいたしておりますが、厳しい状況です。今後とも変わらずご助力を賜りますようお願い申し上げます。

数年にわたり、講堂について「定福寺だより」に掲載をさせていただいてきました。今回は最後になるかと思えます。定福寺講堂建設の決断にいたる様々な要因について再度記させていただきます。

最初にお堂の建築が必要になるかもしれないと感じたのは、

各地区のお堂まつりに訪れた二十数年前でした。仏さまの管理を定福寺で行う時期がくるかもしれないと漠然と考えていました。まだ漠然と考えていただけでした。

二つ目は、人口の減少と意識の変化を感じたことです。私が定福寺に住し始めた二十六年前は、大豊町は五千人強の人口でした。当時、周囲の方々から人が減った、と話をされている様子はちらほらお聞きしていました。私は移住したばかりでしたので、実感として五千人強の人口が普通だと感じていました。しかし人口減少を実感するのに、さほど時間はかかりませんでした。現在まで人口は二千人以上減少しています。前回の「定福寺だより」で詳細はお伝えしたように、切実な問題として実感することとなりました。

三つ目は、日常の祈りや生活、檀信徒の皆様や多くの参拝者と触れ合うことで、「定福寺の意義」について考えることが多くなってきたことです。仏教集団は、世界でも長い間続く集団です。日本では伝統文化を体現している一つと言われています。多くの文化は、人・物・思考など様々な物が行きかう中で、その地域に合ったものが定着し、しかも変化させながら現在まで続いてきたものです。伝統文化と言われる仏教も同様に変化しながら現在まで続いてきました。豊永郷の祈りの中心地であり、多くの文化や文化財が残る定福寺を、次世代に引き継げる状態にしなければならぬと考える一方で、時代と共に必要とされないものは、変化しまた消え去りなくなるのが、自然の摂理なのではないかという考えも浮かびます。例えば、豊永郷民俗資料館の民具は、生活の道具として使用されていたものです。民俗資料館に保存されているというのは、新しい道具が誕生したり、社会の変化によって不要になったからです。別の例でみると、大豊町がお茶の産地だったことをご存知でしょうか。古い



記録にも残るお茶は、養蚕が盛んになると一瞬で茶畑から桑畑になりました。現在は柚子や杉林になっています。社会の変化、そして社会の変化に伴い人の生活や価値観が変化しています。あらゆるものが変化し、また消滅しています。このような現実を目の当たりにし、定福寺について考えることとなりました。各時代に存在するということは、その社会で必要とされる存在ということです。お寺が必要とされるのは、各寺院で引き継がれてきた「祈り」と「祈り」を柱として出来上がる環境・雰囲気だと思っています。定福寺の先師たちによって残された經典や御札、日誌等を整理し保存分類すると、昔の定福寺の姿をうかがい知ることが出来ます。以前ご案内いたしましたように、本堂や持仏堂など諸堂は「祈る場」、経蔵（現在の図書館）や寺子屋のような「学ぶ場」、剣道場など「集う場」として、十二のお堂と建物、仁王門が定福寺にはありました。これらの機能は、先師たちが必要と考え、当時の権力者や檀信徒の協力で建立されたものでした。

二〇二三年から「仏教講座と写経会」を開始いたしました。最初の講義の重要な点は、僧侶は「なる」存在だということです。僧侶以前私は、「サラリーマンをしています」、「学生をしています」と言っていました。「する」存在だと思っていました。学校や仕事が終わった後が本当の自分だと考えていたのです。僧侶になって気づいたのは、「する」存在ではなく、僧侶は「なる」存在だということです。二十四時間三六五日、サッカーをしていようが、遊んでいようが、食事をしていようが僧侶という意識を無くしたことはありません。本堂の扉を閉めたら、それ以降が自分の時間と考えるのではなく、常に僧侶なのです。これは多くの職人さんと同じではないでしょうか。例えば陶器を作る職人が、休みに温泉に行っても、その地域の土やデザイン器が気になるように、常にアンテナを張り、しかもそれが「苦」ではない状態で日常を過ごしているように思えます。

歴代の僧侶が、「祈り」を柱におき、考えてきた伽藍が定福寺の伽藍だったのだと思います。それが人々から必要とされた伽藍でもあったのだと思います。この伽藍は明治時代廃仏毀釈の折、祝融にあい本堂以外全て無くなりました。あれから百五十年の間、檀信徒や定福寺と御縁のある方々のご助力により復興してまいりました。お堂を12宇も復興することはできませんが、今回「祈る場」、「学ぶ場」、「集う場」という昔の伽藍を現代にそった形で講堂として再建いたします。

四つ目がユースホステルの存在です。ユースホステルとして利用していた建物は、ユースホステル協会より借り入れをし、昭和四十二年に建設された建物でした。約二十五年前にユースホステルは閉館し、その後は檀信徒会館として、お寺でのご法事の後の食事の場であり、参拝の方の接待所であり、お寺での研修や集会など様々な利用して頂いておりました。老朽化が進み現在では、漏電のためブレーカーを上げることができず、雨漏り、床下の水道管破損などの影響で利用できない建物となっています。不便になりますが将来的には解体し、平地の予定でした。

五つ目が、不動明王座像、矜羯羅童子、制多迦童子の来寺です。縁起によれば明治六年に成田山新勝寺で開眼供養された三体の仏さまということです。このような仏さまとの御縁があることは非常に稀なことです。

僧侶となり定福寺で生活をする中で、考えてきたことが不動三尊像が遷座（せんざ）されることをきっかけとして、大きく動き始めました。

皆様方には大変なご負担をおかけいたします。まだ、皆様にお礼状をお届けできていない方が多くいらっしゃいます。誠に申し訳ございません。必ずお届けいたします。今後とも変わらぬご助力をよろしくお願いいたします。

旭観音堂の場所

豊永郷には各地区にお堂とお宮があります。高知市内でのご法事が増えたこともあり、高知市内のお堂として、定福寺の旭観音堂ができました。ここでご法事が行えます。住職の生家を改築し十一面観音さまを遷座いたしております。ご法事にお越し頂ける人数は、現在の間隔をあける社会状況では、約十五名くらいまでです。旭観音堂の入り口に自動車三台、一七〇センチ以下の自動車は車庫に二台駐車できます。（北側は定福寺の駐車場ではありません）ご法事の際などお気軽にお申し付けください。



住所 高知市玉水町62-1



【住所】高知市玉水町62-1
※旭町一丁目電停を南に5分（鏡川堤防沿い）

永代供養墓について

高知市や南国市・香美市に豊永出身の方が移住され、数十年前から豊永からお墓を改葬される方が増えています。最近改葬される方でよくご相談を受けるのは、「永代供養墓」のことです。以前は永代供養にご家族でお預けになられたという方が多くいらっしゃいました。最近では、お子様やお孫様が高知県外に移住され、また転勤の多い方もいらっしゃる中でお墓参りができず、そのままとなること

が心配だとかご相談を受けます。定福寺の「永代供養墓」に改葬され埋葬される方が多くなりました。お位牌はお連れできませんが、お墓の移動は大変なので、定福寺に埋葬してくださいとのことです。定福寺では、土葬の形で埋葬をさせて頂き



永代供養墓

ます。よって一度お預かりします。縁者の方は、それぞれの御都合のいい時にお参りにお越しになられています。お困りの際は、いつでもご相談ください。

かりすると移動することができません。定福寺の土になるということです。お彼岸や土砂加持法要などにはお寺でお祈りをいたしております。縁者の方は、それぞれの御都合のいい時にお参りにお越しになられています。お困りの際は、いつでもご相談ください。



永代供養

代供養料として五十年以降にお布施を頂くこともありません。永代供養をお預けになれる方で、先に戒名を授ける方も数人いらっしゃいます。ご相談があればいつでもご連絡ください。

永代供養について

仏教講習と写経会

定福寺では二〇二三年より定福寺と旭観音堂で『般若心経』の写経と仏教講座を行なっています。写経は集中しているとあっという間に時間が過ぎていきます。その間は世間から気持ちが変わった場所であり、気分転換になります。また自分を見つめる時間にもなります。印刷技術のなかった昔、経典を学ぶために、僧侶は最初に写経をしなくてはなりませんでした。『法華経』法師品に「於法華経。乃至一句。受持。読誦。解説。書写。（法華経の乃至一句に於ても受持・読誦し解説・書写し、供養し、合掌恭敬せん）とあるように、経典を受持し読誦することと同様の功德として「書写（写経）」が記されています。平安時代以降、僧侶が学ぶために写経を



し読誦することと同様の功德として「書写（写経）」が記されています。平安時代以降、僧侶が学ぶために写経を



したり、仏法を流布するというだけでなく、祈願成就など信仰のために行われるようになりしました。写経した経典は経筒に納めて埋納する経塚が造られました。定福寺の近隣にも経塚があります。お釈迦さまの教えを説いたお経には功德があり、土地の安全を願ったり、またお堂などの建立の際に写経し埋蔵した記録があります。お気軽にご参加ください。

参加費は千円です。納められた写経は新調いたしました経筒に納め、お寺に安置させていただきます。

日時は定福寺ホームページなどでお伝えいたします。お気軽にお問合せください。



土佐豊永万葉植物園入会のご案内

定福寺の境内には、土佐豊永万葉植物園があります。この植物園は、大平出身で元村長の門田繁穂氏の四男であり、関西万葉植物研究会副会長をされていた門田秀峰氏が一九七四（昭和四十九）年に大豊町に帰省の際、定福寺周辺に数十種の万葉植物の自生を発見したことをきっかけとして誕生いたしました。当時の定福寺住職釣井義光師に相談し一九七五（昭和五十）年に全国で六番目の万葉植物園として定福寺の敷地内に開



土佐豊永万葉植物園

園いたしました。現在、土佐豊永万葉植物保存会が管理運営をいたしております。昨年の「定福寺だより」に松浦佐用彦について記しました。佐用彦の師であるエドワード・モースの同僚でと共に植物や大森貝塚の発掘調査をした教授の矢田部良吉、佐用彦と共に学び矢田部良吉の学生であった松村任三がいいます。彼ら二人は植物学の東大の教授で、牧野富太郎と深い関係があります。

二〇二三年は、第三駐車場の壁面に植物を植え、整備活動を行う予定です。またテレビ小説に牧野富太郎が描かれることもあり、土佐豊永万葉植物園も活動が盛んになることが予想されます。皆様も植物の整備、調査などを一緒に行いませんか。会員を募集いたしております。

年会費…千円

会長…畑山正親

事務局…高知県長岡郡大豊町

栗生一五八 定福寺内

聖天尊衣、念珠新調に関するお願い

聖天尊は、歓喜天とも呼ばれ空海（弘法大師）によって日本にもたらされました。定福寺には江戸時代に伝わり、真言宗の秘法中の秘法です。江戸時代末期の高知市五台山竹林寺に高僧松窓律師は師匠から相承された持念仏の聖天尊を日々護持礼拝いたしておりました。その持念仏の聖天尊を弟子の野本進甲師が、定福寺住職に晋山する際に授けられと伝えられています。以来『浴油祈祷』の厳修がはじまりました。定福寺には歴代住



聖天尊

職が写経した十冊の聖天尊浴油祈祷の次第が残されています。これまで、皆様のご協力で聖天壇や天蓋、仏具を徐々に揃え、

正式な形になってまいりました。最後に念珠と衣を新調したいと考えています。御寄進いただいた方のお名前が衣の裏と念珠の桐箱に記されることとなります。ご協力を宜しくお願いいたします。

聖天永代浴油祈祷

定福寺では、聖天永代浴油祈祷を承っております。いつでもご相談くださいませ。

椅子と机

現在、定福寺では椅子と机を少しずつ求め四十脚ほど揃えました。今後お盆やお彼岸など全て椅子にお座りいただけるようにしたいと考えています。また、車いすの方も持仏堂までお入りいただきお参りができるようになってきました。

「十二天屏風」「種字曼荼羅」新調御寄進のお願い

定福寺開創一三〇〇年、弘法大師生誕一二五〇年、講堂落慶の記念行事として「結縁灌頂」を執り行います。定福寺の本堂は灌頂儀式を執り行うための造りとなっています。結縁灌頂には多くの支具（仏具）が必要です。これまで様々に御寄進して頂き準備が進んでいます。結縁灌頂の中心的な支具に「十二天屏風」と「種字曼荼羅」があります。十二天とは仏教の守護神



十二天屏風（東寺所蔵）

で、東西南北とその間の八方向、それに天・地・日・月を守護する神々が描かれた屏風です。「種字曼荼羅」は、曼荼羅を梵

字で現わしたもので、灌頂の儀式に欠かせないものです。これは江戸時代の定福寺の記録に宝物として記されています。しかし明治時代の祝融により灰に帰しました。現在、種智院大学副学長で梵字悉曇の教授児玉義隆師に種字をお願いし、根来寺に住する仏画師、牧有恵師に筆を執って頂いております。お二人は住職が専修学院でご教授頂き大変お世話になった先生で



種字曼荼羅

す。御寄進いただいた方は、お名前を記させていただきます。

一口：十二天屏風 一人四十万円（5人）

種字曼荼羅 一人三十万円（5人）

仏具 一人十万円（3人）

成田山新勝寺伝来 不動三尊像

二〇二二年五月に新たに定福寺に不動三尊がお越しになりました。

不動三尊像は、不動明王とその眷属の制多迦童子・矜羯羅童子を合わせた三尊のことです。残された縁起には、東京の成就院（現在は廃寺）に、「明治六年一月に成田山新勝寺より遷座（せんざ）された」とあります。江戸時代に成田山新勝寺では、御本尊を江戸にお連れし、出開帳が行われていました。不動明王を参拝することで、多くの江戸の人々は御利益を頂いていました。出開帳は、お堂の建立、

お寺の再建や興隆が目的でした。最初に江戸の深川に安置されたそうです。定福寺の不動三尊像も二〇二二年のゴールデンウィークに定福寺旭観音堂で出開帳を行いました。

江戸の町でも多くの方々の参拝がありました。成田山から江戸まで頻繁に御本尊をお連れすることは大変な作業でした。江戸末期には、成田山新勝寺の願いで造立され不動明を開眼供養し、成田山新勝寺不動明王さまの御分身としていくつかの寺院に御遷座されました。それらの仏さまは明治時代の廃仏毀釈



や第二次世界大戦の東京大空襲により所在は不明となっています。

成就院の住職は、太平洋戦争の際、近隣の方の御厚意により御本尊を倉庫に安置し、強制疎開をいたしました。戦後、疎開から引き揚げてくると成就院は焼失していましたが不動三尊像は災禍を免れていました。住職は、再びお寺の再建を試みた様子がうかがえますが願いはかなわず、僧侶宅に遷座することとなりました。御尊像は、子孫に引き継がれ、小田原の自宅脇にお堂を建立し、御子息によって守られてきました。長年個人宅で遷座されてきた不動三尊像を修繕してあげたいと、吉田安成仏師に修復の依頼をされました。その際、かつてのように多くの方を守護し、広く参拝されることを願っていることを伝聞されてきました。吉田仏師御夫妻とは、長老の次女高田明、また住職とも御縁があり、二〇一六年にお会いした際に定福寺で遷座し、広く多くの方を守護し参拝されるようになればありますが

たいとお申し出をいただきました。

話合いの結果、大変大きなお像のため、老朽化した檀信徒会館を再建し定福寺講堂を建立することとなりました。

不動明王は、五大明王の中心の仏さまです。五大明王は、不動明王、降三世明王、軍荼利明王、大威徳明王、金剛夜叉明王です。不動明王は「堅固な守護者」と言われています。あらゆる人びとを苦しみから悟りの世界へ救い導くために、青黒色の肌をし、私たちを御加護されています。左手にお持ちになっている絹索（けんさく）という縄で、人びとが悪い方向へ向かいそうな時に、縛り上げてでも正しい道へ導いてくださいます。右手の利剣（りけん）は、物事の善悪を見極める正しい判断を象徴しています。怒り、貪り、愚かさという私たちの心の迷いを断ち切り、真実の自己にめざめるといふ、深い洞察力を体得するための利剣です。

不動明王の台座は、磐石（ばんじゃく）と言います。どっし

りとお座りになられています。磐石とは、重い大きな石のことです。全ての人を救い導くという決意を示し、また悟りを求める心が堅固不動の境地にあることを示しています。自分の力を存分に発揮するために、どのような事が起きても冷静に受け止め、何事にも動ぜず対処できる不動心をあらわしています。光背（こうはい）の火焰は、一瞬たりとも弱まることのない燃えさかる火焰の中に住しています。この御姿を通して、日頃の努力を怠らず、積み重ねていくことで道が開かれることを示していると言われています。

不動明王は、八大童子と呼ばれる眷属を従えています。蓮を持つ矜羯羅童子（こんがらどうじ）と制吒迦童子（せいたかどうじ）を両脇に従えた三尊の形式で絵画や彫像に表されることが多いです（不動明王二童子像または不動三尊像と言う）

成田山新勝寺の不動明王と歌舞伎役者の市川團十郎さんとは深いつながりがあります。

初代團十郎が中村座で親子共

演した「兵根元曾我」は、お不動さまへの祈願が成就して長男を得たことに感謝をあらわした舞台で、不動明王をテーマにした初めての歌舞伎でした。この共演を機に市川家は、「成田屋」の屋号を使うようこととなりました。

成田山が江戸深川で行った最初の出開帳と同時期に、初代が胎藏界不動、二代目が金剛界不動を演じた「成田山分身不動」という歌舞伎が大変な人気となりました。成田屋市川團十郎の深い帰依と、お不動さまの御霊験が江戸中に知れ渡りました。

そのような尊い御縁の不動三尊像が、定福寺講堂の御本尊さまとしてお越しくださいました。是非ご参拝くださいませ。

不動護摩祈禱



定福寺仏像・古文書調査

二〇二一年より定福寺では文化庁の研究機関である奈良文化財研究所の星野先生にお越し頂き、定福寺の仏像や神像などの調査を行なっています。二〇二二年の調査では、これまで知られていなかった文字がお薬師さまの胎内から発見されました。途中経過として概報が届いています。聖徳太子さまは一二六二年頃とのことです。定福寺に廃仏毀釈の際に預けられた多くの神像の年代なども判明してきました。平安末期から鎌倉時代の神像がごいます。

また、皆様方からお借りしている古文書のデジタル化や分類の作業が、高知城歴史博物館や

仏像調査



NPO法人地域文化計画の協力を頂き始めました。お借りいたしました古文書はデジタル化され次第、皆様に返却をいたします。

今後、定福寺では定福寺や定福寺に関わる豊永郷の史資料を冊子にまとめ発行していきます。ご協力を宜しくお願いいたします。



一〇六三年の神像



エドワード・S・モースと松浦佐用彦と牧野富太郎

前号でご紹介させて頂いた松浦佐用彦（以下佐用彦）の法要が、命日の翌日の七月六日に行われました。当初は七月五日の予定でしたが、台風の影響で翌日に延期になりました。佐用彦は現代考古学の父として、考古学関係者を中心に毎年東京で、命日の七月五日に「松浦佐用彦忌」が行われていました。二〇二一年十二月に定福寺の境内に改葬供養され、二〇二二年は定福寺で執り行われました。元埋蔵文化財センターの前田光雄先生、高知県考古学の故岡本健児氏の御子息で前高知県歴史民俗資料館副館長の岡本桂典先生がお越しくださいました。毎年七月五日に「松浦佐用彦忌」は行われ、どなたでも参加できます。

佐用彦の墓標の裏にエドワードモース（以下モース）によって記された言葉を、大豊町の子供たちに伝えたいという思いで、拓本の許可を取るところから縁が広がりました。

その言葉が記されたお墓が、谷中霊園より定福寺に改葬されてきました。

佐用彦の時代の大学は、外国の教授が多く、入学の前提として、外国語が理解できる必要があります。佐用彦も東京外国語学校で英語を学んでいました。当時の東京外国語学校には英語教師としてジョーン万次郎が在籍しています。直接習った可能性は高いと思いますが、定かではありません。東京大学入学後、佐用彦の担当教官となった教授が、モースでした。モースは佐用彦をとてて大事に思っていました。

大豊町・定福寺 モースと大森貝塚を発掘 松浦佐用彦 故郷で供養

【東北】日本に近代考古学を伝えた来国の動物学者、エドワード



・モースの一番弟子 佐用彦をしのぶ供養祭で営まれた。昨年11月で、大森貝塚（東京）が60日、出身地である大豊町に、大森貝塚の発掘現場にあった松浦佐用彦の墓が、大豊町の大森貝塚に移された。松浦佐用彦の功績や人柄に思いを込めて、大豊町の大森貝塚に移された松浦佐用彦の墓。同日、佐用彦の定福寺。

松浦は同郡黒石村（現大豊町）生まれ。1877年に東京大学に進んで生物学を専攻し、同年来日したモースの下で大森貝塚の発掘や出土品整理などに尽力した。しかしチフスを患い、78年に32歳で死去。死を悼んだモースは『物質界でも精神界でも最後に判定を下すのは権威ではなく、観察と実験である』との信念を抱いていた人との言葉を、英文で墓石に刻んだ。

墓は松浦の友人の子孫が管理していたが、墓園から撤去されることになり、同町の約井住職（48）に相談。約井住職は「大豊の子にもモースの言葉を伝えたい」と考え、同寺に墓石を移すことになった。要天候で命日の5日から1日延期された供養祭で、参加者は死ぬのがあまりにも早すぎた「長生きしてれば、偉大な考古学者になつたのに」などと早世を惜しんでいた。約井住職は、墓の近くに松浦を紹介する案内板を設ける予定という「大豊の出身者にも学問を強く志した人物がいたと知ってほしい」と話していた。（谷沢文流）

た。その様子はモースの記した『日本その日その日』からもうかがえます。

このモースは、一八三八年にアメリカ北東部のポートランドで誕生しました。絵がうまく、十六歳から兄の紹介でポーランド社の製図工として働き、正確なスケッチをする技術を身につけました。そのころから興味をもった貝の収集やスケッチをおこなっていました。一八五四年にポートランド博物学協会に入会し、ボストン博物学会のメンバーにもなっていました。博物学会のメンバーがモースコレクションを観るためにポートランドを訪れることもありました。モースは一八五六年に見慣れないカタツムリを発見し、報文とカタツムリの標本をボストン博物



A FAITHFUL STUDENT, A SINCERE FRIEND, A LOVER OF NATURE. HOLDING THE BELIFE THAT IN MORAL AS WELL AS IN PHYSICAL QUESTIONS "THE ULTIMATE COURT OF APPEAL IS OBSERVATION AND EXPERIMENT, AND NOT AUTHORITY" SUCH WAS MATSURA. EDWARD S. MORSE.

「忠実な学徒にして誠実な友、自然を愛した人
物質界の問題でも精神界の問題でも最後に判定をくだすのは権威ではなく、
“観察と実験であるとの信念を抱いていた人” それが松浦だった

エドワード・S・モース」

学会に送り、新種と認められ、後にアメリカ博物学の中心であったボストンに移住しました。この頃イギリスでダーウィンが『種の起源』を出版し、進化論をめぐる大論争の目撃者となっています。一八六二年ころから腕足類の研究を始め、日本に三十から四十種類の腕足類がいることを耳にし、訪日を決意し来日しました。

来日後、モースは江ノ島に臨海実験場を開きます。その準備は、矢田部良吉がおこなっています。矢田部はコーネル大学を卒業し、植物学の教授をしていたモースの同僚です。矢田部は実験場の場所選

びや建設の心配をするために江ノ島に同行しています。また松村任三は一八七七年七月モースの助手として江ノ島に出張の命があり出向いています。松村任三は一八五六年生まれで矢田部良吉に師事し東大の小石川植物園に勤務していました。松村の名前は『東京開成学校一覽』には法科で松村任蔵とあります。佐用彦はこの時、予科第4級甲に名前があります。松村がモースの助手として作業を始めて1か月後に佐用彦が江ノ島に行っています。「今日、松浦という、はきはきした立派な男が、大学の特別学生として私に逢いに来た。松村及び料理番と石油ランプを二つ持って、例の洞窟を訪れ、ランプの光で洞窟蟋蟀その他の昆虫をかなりたくさん採取した」とモースが記しているように、一緒に調査を行っています。モースと矢田部良吉、佐用彦、松村任三はともに大森貝塚の発掘調査も行っています。

矢田部良吉は、二〇二二年一〇月の高知新聞でも記事となっていました。牧野富太郎（以下牧野）

と深い関係があります。在野の研究者で学生ではなかった牧野ですが、東京大学に出入りをしていました。後に、矢田部良吉に標本も書物も見せないと申し渡され、駒場にある農科大学で続きの研究を行うことになりました。出入り禁止になった理由は色々あるようです。その後、植物学教室の教授になった松村任三が、牧野を大学に戻らせたようです。牧野と何かと深い関係があった、矢田部良吉と松村任三は、豊永郷出身の松浦佐用彦と共に調査研究をしていた人物でした。

モースは日本で興味をもったことを記録し、スケッチをしています。民具や工芸品、看板などの収集をおこない、現在もセーラムのピーボディ博物館に保存されています。モースはスケッチの技術を生かして家屋・井戸・橋・土木作業・家具・おもちゃ・工芸品・店先・商品・看板・商売道具・農具・漁具・職人道具・信仰・芝居・相撲など、当時の庶民の生活の様子や民具を多く記録しています。

佐用彦が師事した教授のモースは、日本の民俗資料を博物館に展示し、佐用彦と一緒に研究をしていた人々は、牧野富太郎と関係していたのはとても興味深いことです。

定福寺の境内には、豊永郷民俗資料館と一九七五年に日本で六番目に開園した「土佐豊永万葉植物園」があります。二〇二三年には、境内を散策できる準備が進められています。

住職動向

一月	日本博物館協会プロジェクト委員会 高知新聞観光拝観案内 日本博物館協会実行委員会
二月	高知大学（打合せ）大豊町中学校拝観 高知大学（取材）高知城歴史博物館評議会 （株）相愛&（株）アンバーパートナーズ（打合せ） 大豊町観光開発協議会 土佐れいほく観光協議会 講堂建設説明会（於佐賀山地区） オーテピア資料閲覧日・四国銀行（打合せ） 鍊行伝授（於国分寺）出開帳（於旭観音堂） 観光開発協会
三月	三宝山院流報恩院方 一流傳授第六会 NPO法人役員会・文化庁来寺 大豊町観光開発協会評議会 博覧会推進委員会
四月	文化財調査来寺・高知県史編纂委員来寺 植物園連施設会合・高知城歴史博物館館長来寺 土佐MBA観光創生塾・高知城歴史博物館評議会 豊永郷民俗資料館調査 上田設計（打合せ）高知城歴史博物館（打合せ） 松浦佐用彦・大豊町プロジェクト班（打合せ） 土佐MBA観光創生塾・日本博物館協会実行委員会 高知城歴史博物館来寺
五月	博覧会推進協議会 おおよと創生戦略会議・高知新聞観光拝観案内 高知城歴史博物館来寺・おおよと学園中学生拝観 奈良文化財研究所来寺調査
六月	観光創生塾JTB来寺 高知新聞観光拝観案内・高知城歴史博物館（打合せ） 高知県農業振興環境部（打合せ） 三宝山院流報恩院方 一流傳授第七会 民俗資料梱包搬出作業・高知県建築士協会拝観 写経会&仏教講座 （株）アンバーパートナーズ社員研修 梶ヶ森エコツアーガイド養成講座 写経会&仏教講座（於旭観音堂） 梶ヶ森エコツアーガイド養成講座 写経会&仏教講座
七月	
八月	
九月	
十月	
十一月	
十二月	

講堂建設志納金の感謝録

定福寺檀家、信徒、縁者の皆様には講堂建設へ多大なる御協力を賜っております。御志納に對しまして深く感謝申し上げますと共に、ここに報告申し上げます。

一期・二期・三期・四期と分けてご志納のご予定の方もいらっしゃるかと存じます。どうぞ引き続きご協力をいただきたく、宜しくお願い申し上げます。

金額につきましてはこれまで御志納をいただきました金額の総計を載せさせていただいております。尚、「定福寺だより」作成の都合上、令和四年十二月二十日までに御志納いただいた方の御芳名を順不同にて載せさせていただきます。了承くださいませ。

現在の講堂志納金の総額は
金 六九八八万一八〇八円
 でございます。

大豊町
 沖 一、金 十二万円也
 前田 大子様
 高木 叡郎様
 小松健一郎様
 大畑井 一、金 十二万円也
 西村 澄子様

久生野
 一、金 十二万円
 笹岡香代子様
 一、金 六万円也
 大田 昌通様
 一、金 三万円也
 渡辺 栄蔵様
 笹岡 寛様
 一、金 一万円也
 笹岡 信子様
 氏原 菊子様
土居番
 一、金 十二万円也
 大田宏一郎様
 三谷 良子様
 三谷三治雄様

野々屋
 一、金 十二万円也
 小笠原啓元様
 永森 亀太郎様
 永森 宗雄様
 氏原ヒロ子様
 小笠原良太郎様
 重森 好文様
 一、金 二万円也
 渡辺 昭子様
 一、金 一万円也
 氏原ヤスミ様
藤久長
 一、金 十二万円也
 三谷 敏子様
藤
 一、金 三万円也
 八木 恒子様
 一、金 二万円也
 吉永 洋子様
柚木
 一、金 百万円也
 前田幸太郎様
 一、金 十五万円也
 前田 波穂様
 一、金 十二万円也

三津子野
 一、金 十三万円也
 豊永 信一様
 一、金 十二万円也
 西村 茂頼様
 一、金 一万円也
 三谷 常敏様
怒田
 一、金 十四万円也
 三谷 秋香様
 一、金 十二万円也
 小笠原貞雄様
 門田 福實様
 渡辺 伸子様
 森尾 憲一様
 朝倉 榮一様
 川崎 幸男様
 前田 孝雄様
 一、金 九万円也
 小笠原武生様
 一、金 三万円也
 久松 一男様
 上村 利子様
 久松美知子様

南大王
 一、金 十二万円也
 上村 初子様
 岡本 弘様
 佐竹 弘義様
中内
 一、金 十二万円也
 渡辺 和子様
高原
 一、金 十二万円也
 門田 浩人様
 一、金 三万円也
 門田 墨子様
川井
 一、金 十二万円也
 小松 浩久様
 岩本 政弘様
 渡辺 幸男様
 藤原 道夫様
 三谷 武昭様
 一、金 三万円也
 渡辺 盛朗様
落合
 一、金 十二万円也
 笹岡 壽男様
 上池 サ子様

大滝	一、金 十二万円也	小松 栄子様	小松 俊久様	大平	一、金 十二万円也	三谷 啓子様	門田 千鶴様	一、金 十万円也	都築 一久様	将子様	一、金 一万円也	都築重太郎様	粟生	一、金 十二万円也	田内美伎子様	小笠原康太様	西村 敬史様	阿波井忠彦様	三谷 忠夫様	一、金 一万円也	三谷富二子様	東土居	一、金 百万円也	西谷 侑紀様																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		上村幸子・三谷等代様	三万円也			笹岡たか子様	一、金 五十万円也		西村 藤子様	一、金 二十万円也		南 博志様			一、金 十二万円也	小笠原信子様	小笠原覚太郎様	秋山 公生様	松本 秋子様		平石 義信様				こんどうストアー	岡林 真理様	西梅 優一様	小笠原健一様	都築 長生様	一、金 六万円也	小笠原伊豆子様	八畝	一、金 十二万円也	西村 家光様	笹岡 祐介様	小笠原須香子様	信高 春代様	三谷 廣様	西村 時宗様	笹岡 一郎様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	西村 秀仁様	西川	一、金 五十万円也	三谷 雄一様	三谷松太郎様	一、金 六万円也	岡本 享様	一、金 五万円也	三谷 安一様	佐賀山	一、金 十二万円也	渡辺 亀子様	山中 亀菊様	松高 宗男様	山中 国男様	山中 和彦様	小笠原茂夫様	松高 俊二様	西村 正子様	西村 武明様	山中 樹様	西村 光子様	一、金 六万円也	山本 幸雄様	一、金 五万円也	三谷 義文様	岩原	一、金 五十万円也	下村 皖徹様	森下 守良様	一、金 二十万円也	下村 信幸様	下村 ヤスコ様	下村 直史様	森下 廣文様	一、金 十三万円也	岡崎 博臣様	一、金 十二万円也	寛 貞子様	下村和鹿子様																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
		一、金 六万円也	田村 主江様			三谷 松太郎様	三谷 松太郎様		三谷 松太郎様		三谷 松太郎様			三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様		三谷 松太郎様		三谷 松太郎様			三谷 松太郎様	三谷 松太郎様		三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様		三谷 松太郎様		三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様	三谷 松太郎様

一、金 六万円也	上東 一、金 十五万円也	小川 一、金 五万円也	一、金 釣井 直子様 三万円也	一、金 二十五万円也	田内喜久世様
北村 利男様	小笠原美衛様	山口 京子様	久保 慶子様	上地 幸男様	中西 清彦様
一、金 三万円也	一、金 十二万円也	川口 一、金 十二万円也	戸手野 一、金 十二万円也	一、金 二十万円也	長野 智晴様
北村 守重様	三谷 良一様	三谷 和秀様	三谷 豊恵様	北村 真一様	永森 美智様
北村 武子様	三谷 幸夫様	平石 安央様	中村大王 一、金 十二万円也	下村 賀基様	西村 満恵様
一、金 十二万円也	三谷 忠幸様	佐竹 秀逸様	一、金 十二万円也	一、金 十五万円也	信高 幸子様
坂本 国治様	山中 英榮様	一、金 九万円也	中村大王 一、金 十二万円也	岡崎 廣様	平石 甲子郎様
上村 広光様	山中 清和子様	佐竹 秀逸様	一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	平石 礼子様
佐竹 和彦様	上池 楠於様	三万円也	上村 誠志様	井上 央様	平石 君子様
上村 好重様	三谷 愛則様	永森 裕治様	一、金 六万円也	岡崎 順一様	藤田 恵美子様
一、金 五万円也	上村 茂清様	一、金 二万円也	小笠原ヨシ子様	小笠原郁子様	藤原 憲一郎様
上村 三万円也	上村 良子様	藤原 正豊様	船戸 一、金 十二万円也	小笠原喜代子様	藤原 恵様
上村 昇一様	三谷 水利様	杉 一、金 十二万円也	山本 富男様	小笠原祥一様	三谷 加子様
連火 一、金 十二万円也	小笠原 清様	永森八重子様	和田目付 一、金 十二万円也	小笠原利夫様	松田 時江様
秋田 耕一様	西谷 章博様	中西 純様	前田 浩二様	小笠原秀郎様	三谷 孝子様
松浦 一雄様	庵谷 一、金 十二万円也	田中 極子様	高知市 一、金 百万円也	小笠原正様	三谷 直行様
上村 幸夫様	吉村富由子様	入野 耕一様	竹林寺住職	小笠原光子様	三谷 義兼様
一、金 十二万円也	永森 遥子様	高須 一、金 十二万円也	一、金 五十二万円也	門田 健夫様	森本 晃行様
西村 享子様	白石知代子様	小笠原利友様	小松 久保様	上地 正子様	山中 豊様
上村美香子様	西谷 善利様	徳弘 幸盛様	一、金 五十万円也	上村 馥様	山中 末子様
安野々 一、金 五十万円也	中屋 一、金 十二万円也	村山志津子様	(有)成豊建設	上村 積夫様	山中 展子様
都築 康博様	上地美津男様	寺内 一、金 十二万円也	上村 一正様	上村 太喜夫様	山本 光子様
一、金 十二万円也	穴内 一、金 十二万円也	都築 満男様	都築満里子様	上村 吉秋様	吉永 俊誠様
都築 俊子様	小林 一美様	三谷 和也様	土居 瑞様	上村 賀彦様	吉村 英法様
上地 博子様	一、金 十万円也	一、金 三十万円也	小笠原悦弘様	上村 義久様	渡辺 茂信様
		寛 邦彦様	寛 邦彦様	北窪 堅一様	渡辺 美佐子様
				北添ひとみ様	渡邊 道男様
				小松 一郎様	石本喜久子様
				佐野 茂様	大崎 一男様
				澤田 美紀様	徳増 和男様
				下村 元明様	弘瀬 登美子様
				高橋 節子様	岩村 久様
				砂田 英伸様	豊永 正富様
				瀧下 靖夫様	門田 速雄様

笹岡 良男様	豊永 啓一様	一、金 一千元也	濱崎 勝安様	一、金 九万円也	三谷 茂敏様	一、金 三万円也	三谷 千代美様
上田 直人様	岡崎 正典様			岡崎ヨシ子様	三谷 武正様		
氏原 靖夫様	松岡 末喜様			小笠原美智様	三村 満男様		
大崎 和様	一、金 三万円也	南国市		一、金 三万円也	一、金 十万円也		
尾立 靖宣様	飯田 順一様	一、金 二十万円也		岡崎 太助様	株式会社テラムラ		いの町
佐竹 英敏様	氏原 靖規様	一、金 三谷 せつ様		森尾 麻依様	代表取締役 寺村 勉様		一、金 十二万円也
白石 重喜様	小笠原侶子様	一、金 十二万円也		豊永 清香様	岡崎 忠生様		門田 広志様
都築登喜子様	門田 忠様	小笠原雪子様		一、金 一万円也	岡崎 忠生様		上村 秀夫様
弘田 允英様	北窪 康宏様	小笠原良一様		田淵 能生様	一、金 六万円也		平石 聡様
三谷 節夫様	小松 英正様	金子 糸枝様			一、金 六万円也		三谷 敬晃様
南 賀徳様	小松猪佐夫様	門田 利彦様			一、金 三万円也		一、金 九万円也
三谷 禮子様	笹岡袈裟穂様	北村 竝生様			都築 満徳様		岡本 圭子様
上村 正男様	笹岡 朝吉様	小林 綾子様			西村 盛様		北海道
西村 正様	永森 利博様	佐竹 弘敏様			三谷 清夫様		一、金 十二万円也
藤原 一男様	西村 孝様	都築 正子様					森本 敏正様
三谷 一彦様	信高 顕彦様	豊永 英夫様					長谷 真平様
三谷 純清様	松高 治吉様	西村美津子様					東京都
小笠原敏雄様	吉村 広様	古地 裕和様					一、金 十二万円也
畦地美知子様	井口シズエ様	前田 和男様					前田 嘉俊様
中川 和博様	三谷 直美様	松高 清信様					柳村真理子様
松田 修昌様	酒井 友子様	三谷 政博様					上村 公昭様
三村 悦子様	鶴原 正一様	三谷 俊美様					平尾 修章様
南 正様	永野美榮子様	三谷由美子様					大田 加代様
佐竹 和子様	三谷 哲生様	村上 三郎様					
松田 邦夫様	三谷 虎子様	森本 憲昌様					
上村 国之様	高野 広茂様	下村 定様					
三谷 宏様	一、金 二万円也	佐竹 文雄様					
森岡 俊幸様	上村 敏彦様	永澤 悦穂様					
一、金 十万円也	和田 樹霖様	依光 佳景様					
戸田 知恵様	一、金 一万円也	大家 福盛様					
山中 典子様	小笠原由美子様	小林 幹雄様					
渡辺 康男様	三谷 晴澄様	一、金 十万円也					
三谷 幸正様	三谷 幸正様	佐竹 京子様					
上村 満尚様	宮崎 聖也様	三谷 富盛様					
都築 敏郎様	上岡 孝夫様	国分寺住職					
一、金 五万円也	山崎 匡様	林 隆光様					

神奈川県			一、金 百万円也			一、金 三万円也			上村 まき様		
一、金 西村 真紀様			一、金 十五万円也			一、金 小笠原昌彦様			田中 球地様		
一、金 三宅 博子様			一、金 十二万円也			一、金 一万円也			小松 淳子様		
上村 智彦様			赤井 智司様			京都府			茨木 一彦様		
一、金 千代様			山川 進様			一、金 百万円也			林 幹夫様		
一、金 三万円也			前田 治男様			(株)オープン工業様			高倉 紘世様		
一、金 一万円也			大西 崇博様			大阪府			一、金 五十万円也		
岐阜県			三千円也			一、金 二十万円也			垣内 雅子様		
一、金 早坂富司様			一、金 十二万円也			門田 永治様			北窪 正典様		
愛知県			十二万円也			赤川美津代様			三谷 修司様		
一、金 鈴木 弘美様			一、金 六万円也			岩本 功様			高田 明様		
一、金 藤原 清高様			山中 泉様			西村 聖一様			上地 操一様		
一、金 小笠原陽子様			一、金 一万円也			林 育子様			白石 昌久様		
三重県			十二万円也			藤原 政直様			藤本 功様		
一、金 西村 文夫様			一、金 九万円也			釣井 丈様			大家 浩二様		
一、金 六万円也			日浦 種子様			青木 幸様			三万円也		
滋賀県			十二万円也			上 清文様			高橋 豊様		
一、金 五万円也			山崎 博三様			竹山計恵子様			片山 哲夫様		
一、金 三万円也			坂本 真樹様			川部 正司様			英里様		
一、金 十二万円也			一、金 十二万円也			小池 雅子様			宝塚市		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			小池 宏和様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			小池 良子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			中川 守男様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			藤原 忠重様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			伊野原富美様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			三谷 祐功様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一、金 六万円也			吉岡 和子様			一、金 十二万円也		
一、金 六万円也			一								

寄進、御奉仕への感謝録

一、金 参拾万円 也

施主 柚木 前田 幸太郎 様

菩提寺興隆、先祖菩提

講堂曼荼羅絵図代として寄進

一、金 壹拾万円 也

施主 連火 上村 幸夫 様

菩提寺興隆、先祖菩提、父清實 丁 菩提

講堂仏具代として寄進

年間の行事(おまつり)の前後や年末年始には、初穂米、野菜、山菜、砂糖、生花、シキビ等々が届けられます。ご信心な方々には、行事ごとに、当日のお手伝いをしていただいています。また、責任役員様をはじめ、各地区世話人様、節分世話人様、詠歌会の皆様には多大なご尽力をいただいております。

ここに、先祖菩提、仏法興隆の為、謹んで御礼申し上げます。



高知市

安岡真三郎様

小松美智子様

三十年以上に渡って衆生
聖天さまへのご信仰をい
ただき、生花をお供えい
ただいております。
ありがとうございます。

曼荼羅について

まんだら

平成元年、四国内のお宮さんとお寺さんが話し合って新四国曼荼羅八十八ヶ所霊場が開かれました。定福寺は第六十一番札所となりました。その後、たくさんのお遍路さんに参拝いただいております。曼荼羅とは、輪廻具足と申しまして、輪は車輪、廻は回転、具足は備わっていることです。つまり、全てが整い常に動いている姿を現しています。

先年、チベットの修行僧が来寺され、日本の真言密教とチベットの密教の交流が行われました。その折、五色の砂で曼荼羅を造立されました。完成したところで大勢の参拝者も一緒になって般若心経を唱え、その後、お寺の下に流れる南小川に曼荼羅の砂は流されました。水は宇宙に染み込んでいきます。全てが幸福でなければならぬと申されました。

曼荼羅の心、そしてその実践が大切であると思います。 合掌

長老 龍宏 拝

栗生聖天永代浴油祈禱料 志納御芳名

定福寺のお聖天さまは、商売繁盛・家内安全・当病平癒・開運福寿・学業成就などにご利益があるといわれており、ご祈願が多く寄せられています。お聖天さまの氏子（子供）や信徒（熱心な信者）となり、毎年お札を受けることもできます。

永代浴油祈禱は申し込みの方が永代受けられるご祈禱です。
お申し込みの方には石碑が建立されます。

永代中品浴油祈禱

一、金 壹百万円 也

施主 川戸 西村 吉史 様

母 享子 様

永代日牌供養・永代納骨供養 新奉加御芳名

永代日牌供養とは、当山持仏堂（弘法大師、興教大師御宝前）にお位牌を安置し、毎朝仏飯とお茶をお供えして読経回向し、春彼岸の入りには年回忌を迎える仏さまの卒塔婆を建て、年回忌ごとに先祖代々の場合は5年ごとに案内しご供養を申し上げます。五十回忌の後もお位牌は末代安置され、ご供養をしてまいります。

永代納骨は、境内の万霊供養塔にお骨を納めて永代供養を申し上げます。

一、施主 高知市 上池 穰 様

母 楠於 〓 菩提也

一、施主 栗生 小笠原輝美 様

小笠原家 永代納骨 菩提也

一、施主 三谷家 永代納骨 菩提也

一、施主 篠山市 高田 典行 様

叔父 潤治 〓 菩提也

叔父 潤治 永代納骨 菩提也

祠堂料志納御芳名

祠堂料とは、亡き仏さまへの報恩謝徳と菩提寺の興隆を念じて奉納される浄財です。その御芳志の高徳にお応えして、菩提寺より亡き仏さまに、院居士・院大姉・居士・大姉の法名が届けられます。

一、施主 大畑井 西村 良一 様

父 明政 〓 菩提也

一、施主 沖 高木 正男 様

父 叡郎 〓 菩提也

一、施主 南国市 三谷 圭輔 様

母 由美子 〓 菩提也

一、施主 高知市 小林 大文 様

父 康秀 〓 菩提也

一、施主 沖 小松 隆章 様

父 正義 〓 菩提也

一、施主 怒田 門田 豊子 様

夫 福實 〓 菩提也

一、施主 高松市

小笠原明美 様
儀母 安子 〓 菩提也

一、施主 筏木

寛 孝一 様
父 義孝 〓 菩提也

一、施主 久生野

笹岡 寛 様
母 操子 〓 菩提也

一、施主 連火

上村 幸夫 様
父 清實 〓 菩提也

定福寺開創1300年・弘法大師御生誕1250年 記念法要

定福寺では2023年から2025年まで、定福寺開創1300年、弘法大師生誕1250年の関連行事を執り行います。2023年4月から定福寺宝物殿では、「定福寺の神像展」を開催予定です。2023年5月1日は、「定福寺不動三尊像遷座法要」を厳修いたします。6月15日には持仏堂のお厨子を特別開帳し法要を執り行います。2024年春には定福寺講堂落慶法要が厳修されます。2025年春には定福寺で結縁灌頂を厳修いたします。

詳細は、後日ホームページなどでご連絡をいたします。

- ・不動明王遷座法要 2023年5月1日 定福寺持仏堂
- ・弘法大師生誕記念法要（特別開帳） 2023年6月15日 定福寺持仏堂
- ・定福寺宝物殿 特別展示「定福寺の神像展」 2023年3月17日
- ・定福寺講堂落慶法要 2024年 春予定

永続米（護持会費）の納入についてのお願い （令和5年分）

町内檀信徒の皆様は、各地区総代（護持会代表）・世話人様のお世話により、一月中に納入されています。町外檀信徒の皆様は、振替用紙にてお納めくださいますようお願い致します。尚、納められた浄財は、私たちの総本山智積院への負担金及び定福寺の護持興隆の為に使用させていただきます。（振替用紙をご利用ください）

金 1,500 円以上也

1 月末までにお納めください

郵便口座 口座記号 01620-7

口座番号 12426

加入者名 宗教法人 栗生山 定福寺

2023年

令和5年度年回表

一周忌	令和4年
三回忌	令和3年
七回忌	平成29年
十三回忌	平成23年
十七回忌	平成19年
二十五回忌	平成11年
三十三回忌	平成3年
五十回忌	昭和49年
百回忌	大正13年
以下50年目ごと 仏誕	2589年

連絡先をお伝えください

豊永郷では、人口減少が進んでいます。多くのことは、各地区や近所の方々によって、問題解決されますが、緊急事態の時に頼りの方が外出されていたり、遠方の子供や孫に連絡をしなければならぬ時があるかもしれません。実際に近年、そのようなことが何件もありました。そのような時のために、お子様や親戚の方などの連絡先をお寺にお伝えいただいております。お寺の住所録に記載し、お寺から連絡をとることができます。連絡をする際は、お寺から直接致します。別の方に連絡先だけをお伝えすることはありません。

栗生山歓喜院 定福寺チャンネル

お彼岸や土砂加持法要、お盆のご案内の際にお伝えいたしましたように、定福寺では、YouTubeチャンネルを開設いたしました。

法要の様子や豊永郷の様子をご覧いただけます。

是非ご覧くださいませ。



YouTube



ホームページ

**定福寺持仏堂・旭観音堂での
ご法事について**

定福寺持仏堂や、旭観音堂でご法事を希望される方は、自宅でご法事をしてさし上げる用意に準じて、お供え物などのご持参をお願いいたします。

○お位牌

○線香、ロウソク二本

（大きめのものがあります）

○生花、檜（花入れは一对準備しています）

○果物、お菓子（故人が大好きだったものなど）

御霊供膳（仏さまへのお膳）はお寺で準備いたします。

いたします。

お集まりになる方が大人数となる場合はお知らせください。

定福寺の諸仏像（県指定 12 体 ○印）・堂宇

定福寺本堂

- 阿弥陀如来像(本尊)
- 薬師如来像(脇土)
- 地藏菩薩像(脇土)
- 不動明王像
- 毘沙門天像
- 十一面観音像(定福寺奥ノ院)
- 不動明王像
- 矜羯羅童子像
- 制吒迦童子像
- 歡喜天像
- 大黒天像
- 妙見菩薩像

宝物殿

- 六地藏（笑い地藏）

- 聖徳太子立像
- 不動明王座像
- 弘法大師座像（御影堂）
- 毘沙門天
- チベット砂曼荼羅・仏具
- 諸菩薩
- 神像

持仏堂（大師堂）

- 弘法大師座像
- 行基菩薩座像
- 興教大師座像

国登録有形文化財

本堂、持仏堂(大師堂)

境内

弘法大師修行像
十三仏像・七福神像
観音像
四国 88ヶ所お砂踏
仁王門
薬師堂
水神
熊野神社

定福寺開創	1300年前
本尊造立	871年前
本堂再建	243年前

令和 5 年 当山年中行事

行 事	日 時
修 正 会 大護摩祈禱 大般若經転読	1月1・2・3日 午前9時より
七 福 神 ま つ り（福笹授与・七草がゆ接待）	1月7日
節 分 会（厄はね歳とり）大護摩祈禱	2月3日 10時
檀 信 徒 年 回 忌 先 祖 総 供 養（彼岸中日）	3月21日
土 砂 加 持 法 要（先祖菩提総供養）法話 12時より	4月1日 14時
加 持 ヶ 峰 奥 ノ 院 大 師 縁 日 大護摩祈禱（旧暦3月21日）	4月21日
花 ま つ り（大念珠まわし・百足除札授与・甘茶接待）	5月8日(旧暦4月8日)10時
蓮 ま つ り（万霊供養）土佐豊永万葉植物園保存会主催	7月初旬～8月中旬 寺
諸 病 き ゆ う り 封 じ 祈 禱 土用の丑	7月23日 9時
お 盆 総 供 養（迎え火）	8月13日 9時
施 餓 鬼 供 養（千体地藏流し・送り火）東土居川原	8月16日 16時
も み じ ま つ り	11月初旬～12月初旬
粟 生 聖 天 結 願 祭（開運福寿）	11月16日 9時～14時
除 夜 の 鐘	12月31日 17時
粟 生 聖 天 ご 縁 日	毎月 1日・16日
詠 歌 会（午前10時～12時）	毎月 2回
写 經 会 と 仏 教 講 座	毎月 2回

御法事を営まれる際はなるべく早目にお申し込みくださいますようお願いいたします。
（友引は葬儀、法事は執り行いません）お塔婆は1本二千円です。

発行所

真言宗智山派
宗教法人 粟生山 定 福 寺
〒789-0167 高知県長岡郡大豊町粟生
☎ 0887 (74) 0301(代) FAX 0887 (74) 0302
HP: jofukuji-kochi.jp

郵便口座 口座記号 01620-7 口座番号 12426
加入者名 宗教法人 粟生山 定福寺

住 職	住 職	住 職	住 職
長 老	長 老	長 老	長 老
法類総代 竹林寺住職	法類総代 竹林寺住職	法類総代 竹林寺住職	法類総代 竹林寺住職
責任役員	責任役員	責任役員	責任役員
責任役員	責任役員	責任役員	責任役員
地区護持会	地区護持会	地区護持会	地区護持会
遍照講詠歌会講員 一同	遍照講詠歌会講員 一同	遍照講詠歌会講員 一同	遍照講詠歌会講員 一同
代表会	代表会	代表会	代表会
小笠原俊一	小笠原俊一	小笠原俊一	小笠原俊一
下村 堯基	下村 堯基	下村 堯基	下村 堯基
海老塚和秀	海老塚和秀	海老塚和秀	海老塚和秀
釣井 龍秀	釣井 龍秀	釣井 龍秀	釣井 龍秀
釣井 龍宏	釣井 龍宏	釣井 龍宏	釣井 龍宏

令和五年 癸卯



山芍薬(やましゃくやく)

ボタン科(ボタン属)
白の山芍薬は3月の終り頃、紅の山芍薬はひと月遅れて4月の終り頃に見ごろとなります。
どちらも凛として美しい花です。

令和五年春からの、NHK連続テレビ小説第108作『らんまん』のモデルは、日本植物学の父 牧野富太郎(まきのとみたろう1862-1957 高知県高岡郡佐川町出身)です。
土佐豊永万葉植物園は直接に牧野富太郎との関係はありませんが、牧野富太郎とゆかりのある植物はいろいろと植生しています。

今回は当植物園の草花を牧野富太郎との関係でまとめておきたいと思います。

新種の発見(学名命名 学名の一部にMakinoとある)か、新種を発見したが学名はロシア人が付けた、学名はつけたが和名は誰が付けたかわからない、学名の記載に何らかの形で携わった(括弧付けてMakinoとある)、などいろいろとパターンがあるようです。

●牧野博士が命名に関わった種で、当園に植生しているもの

エイザンスミレ、ジユウニヒトエ、センブリ、オトコエシ、ヤマヒヨドリバナ、サカワサイシン、アオテンナンショウ、コンロンソウ、ウバユリ、オンツツジ、エンレイソウ、ヤマジノホトトギス、ヤマアジサイ、ウツボグサ、ノジギク、ミソハギ、ヤブツバキ、ヒメヤブラン、センリョウ、クチナシ、ヤマシャクヤク、コバナノタツナミ、ジヨウロウホトトギス、シロヤマブキ など

●その他、乱獲などで貴重となった山野草も育てています。

キイジヨウロウホトトギス、ガンゼキラン、タキユリ、キレンゲショウマ、ユキモチソウ、フクジュソウ、イカリソウ、シラネアオイ、ベニバナヤマシャクヤク、クマガイソウ、キツネノカミソリ、ユキワリイチゲ、ユキワリソウ、クリンソウ、ヒトリシズカ、フタリシズカ、トラノオ、セリバオウレン、カタクリ、リンドウ、バイカオウレン など

「バイカオウレン」について

高知県立牧野植物園のシンボルマークになっているのはバイカオウレンという山野草の「葉」です。バイカオウレンは牧野博士が大好きだった花で、故郷である佐川町の牧野公園でも大切に育てられています。

佐川町のバイカオウレンについては、一九一一年にそれまで記載されていたバイカオウレンの変種として学名和名を牧野博士が発表しました(根茎がツル状に伸びるのでツルゴカヨウオウレンとした)が、現在はその説は支持されておらず、「バイカオウレン」として統一されています。土佐豊永万葉植物園でもバイカオウレンを育成しています。
ちなみに漢字では梅花黄連です。

生涯で約一五〇〇種類以上の新種を発表し、約四十万点以上の植物標本を残した牧野博士。博士は明治から大正・昭和そして未曾有の敗戦と、混乱の時代の中でもただひたすら愛する草花と向き合い、明るいまなざしで生命の多様性を肯定し続けました。博士の喜びと感動に満ちた人生のドラマを楽しみにしたいと思います。